

俳句を写真画像と共に楽しむ 〈奇数月28日発刊〉

●しゃらくかい 写楽同会

令和7年 春の号 [vol.92]
(3・4月)

<https://isamusouma.web.fc2.com/>

投稿先; kinuko_thompson@hotmail.com

© 2025 Sharakukai



春(3・4月)の兼題「橋」 出題: 準坊

写真俳句の部

(掲載ランダム)



吊り橋の放物線に春疾風

はるはやて
吊り橋の放物線に春疾風

(季語: 春疾風=春)

準坊



関門をつなぐ吊り橋春來たる

関門をつなぐ吊り橋春來たる

(季語: 春來る=春)

千泉



春浅し過疎の村への橋渡る

春浅し過疎の村への橋渡る

(季語: 春浅し=春)

昼寝覚



橋上に聳える神座冴え返り

そび しんざ
橋上に聳える神座冴え返り

(季語: 冴え返り=春)

池福楼

「橋の中央にいるのは私の妻です。」



橋中に見やる富士には春霞

橋中に見やる富士には春霞

(季語：春霞=春)

iSAMU



風薫る吊り橋半歩深呼吸

風薫る吊り橋半歩 深呼吸

(季語：風薫る=夏)

水澄



春寒を過ぎる鈍行高架橋

はるさむ よぎ

春寒を過る鈍行高架橋

(季語：春寒=春)

福来雀



かずら橋
肝を冷やすや目借時

かずら橋肝を冷やすや目借時

(季語：目借時=春)

陽閑



春夕焼集う撮り鉄跨線橋

春夕焼集う撮り鉄跨線橋

(季語：春夕焼=春)

久芽



小さき橋春がきたかと川のぞく

小さき橋春がきたかと川のぞく

(季語：春=春)

梵木

俳句の部

(掲載ランダム)

夏山に人人人の河童橋 昼寝覚 (季語：夏山=夏)
「上高地の河童橋はインバウンドの人で一杯でした。」

鷺口に蛙足搔いて揺れる橋 陽閑 (季語：蛙=春)
「足搔いて=あがいて。」

吊橋を一人ゆらゆら水草生う 一枝 (季語：水草生う=春)

春の宵昭和漂うガード下 準坊 (季語：春の宵=春)

涅槃色に漂つ石橋虚子忌かな 福来雀 (季語：虚子忌=春)

のどかさや真ん中歩く沈下橋 水澄 (季語：のどかさ=春)

橋上やわずかに残る別れ霜 千泉 (季語：別れ霜=春)

紫雲英揺れ一気に渡る丸木橋 久芽 (季語：紫雲英=春)

清明や橋駆け上がれニューシューズ 池福楼 (季語：清明=春)

はしのはし春がきたかと草さがす 梵木 (季語：春=春)

テムズ川橋の渋滞溶けぬ春 マム (季語：春=春)

季語解説

風薫る (かせかおる) = 木々の緑の香りを運ぶ心地よい風。和歌では、花や草の香りを運ぶ春風の意であったが、連歌で、初夏の風として意識されはじめた。【夏】

別れ霜 (わかれしも) = 晩春に降りる霜。俗に「八十八夜の別れ霜」といわれ、八十八夜(新暦五月二日ごろ)を境に霜の降りることはまれになる。【春】

目借時 (めかりどき) = 春の暖かさは眠気を誘うが、わけても蛙の声が聞こえるころになると、うつらうつらと眠くなる。俗に蛙に目を借りられるからといい、このころの時候を蛙の目借時といった。古風な俳諧味のある季語の一つといえよう。【春】

清明 (せいめい) = 二十四節気の一つで新暦四月五日ごろにあたる。清浄明潔を略したものといわれ万物が潑刺としている意から、清明という。【春】

春寒 (はるさむ) = 春寒(しゅんかん)・料峭(りょうしょう) 立春後の寒さ。余寒と同じであるが、すでに春になった気分が強い。料峭は春風が冷たく感じられること。春寒・料峭ともに手紙の書き出しにも。【春】

長閑さ (のどかさ) = 春の日はゆったりとしてのびやかである。その静かに落ち着いたさまをいう。【春】

水草生う (みくさお) = 春になって池・沼・沢などの水が温み、藻の類、萍(うきくさ)、蓮や菱など様々な水生植物が生えてくること。具体的に植物名を冠する場合もある。【春】

紫雲英 (げんげ) = マメ科の越年草の蓮華草の花として。かつては緑肥として刈り取りの終わった稲田で広く栽培されていた。四～六月に花柄を伸ばし、先端に多数の蝶形花をつける。【春】

冴返る (さえかえる) = 暖かくなりかけたころにまた寒さが戻ってくることをいう。再びの寒気によって心身の澄みわたるような感覚が呼び覚まされる。【春】

春疾風 (はるはやて) = 春の強風・突風をいう。西または南からの風で、雨を伴ったり砂塵をまいたりする。【春】

池福楼

ギャン泣きの園児とつなく小さな手

[手をつながれた子の困惑した顔が可笑しい]

三歩行き腰を伸ばしてまた三歩 [フレイルの前触れ?]

準坊

指乾きスマホが感知しなくなり [カッサカサ]

誤字脱字そのまま送信気がつかず [指が震えて・・・]

内科から風邪なら耳鼻科だと言われ [薬の処方箋くらい書いてくれ!]

千泉

病んでみて初めて感ずる我が齢 [回復が遅れます]

陽閑

道迷う夢か真か迷い増し

何もせず検査結果は歳とされ

救われぬ末法末世なんと読む

水澄

ジムお風呂お口の体操賑やかし [おしゃべりの賑やかなこと]

福来雀

女子会と称する実態老人会 [気は心]

『どっこいしょ』立つも座るもまずはこれ [我ながら情けない]

孫すたすた婆よちよちで散歩する [ついこの間までは逆だった]



初夏 (5・6月) の号 兼題「眼鏡」

イメージ写真

- 千泉さんより初夏5・6月号の兼題を「眼鏡」と出題していただきました。隔月という課題になりますが季節は幅広く捉えて自由に発想を広げて作句をお願いします。
締め切りは令和7年5月20日です。

- 写楽句会にご意見、ご希望等ございましたらお知らせください。

下記のiSAMUさんのホームページから「写楽句会」をクリックして頂くと写楽句会のバックナンバーが閲覧できます。

<https://isamusouma.web.fc2.com/>

写楽句会 連絡先: kinuko_thompson@hotmail.com

© 2025 Sharakukai